

「風評払拭の手助けを」

炊き出し先で野菜預かり販売

東京現地本部

原発事故の風評被害を支援しようと、東京に苦しむ福島県田村市 教区現地緊急災害対策



本部（本部長＝山本政秀教務所長）は5月26日朝、同市の農家から預かった野菜の販売を築地別院の門前で行った（写真）。

同市には原発事故の

警戒区域内の住民が多く避難しており、同本部はその避難所の一つで5月11日から毎週水曜日に炊き出しを行っている。この活動を通して風評の影響で市場などに野菜が出荷できない事情を知り、同本部は同市の社会福祉協議会を通して支援を申し出て、地元の農家から野菜を預かり販売す

ることになった。

25日には、同教区青年僧侶協議会の会員や同別院職員ら7人が現地を訪れ、同別院内の日本料理「紫水」が調理したカレーの煮付け200食分を振る舞った。この後、同市大越町の農家・野口美津枝さんからキャベツ、山ウドなどを預かり東京に戻った。

「拭の手助けになれば」
と話している。また、毎回炊き出しは、避難住民の要望に
「煮付けは久しぶり」
など感謝の声がかかっている。

「新から提供された一口よ
かん200個を届け